



《西洗馬上組地区大日堂墓地の桜》

鉢盛おろし

夏の日の雑感

この夏、西洗馬上組地区の大日堂墓地に在る桜の老木が、諸般の事情により惜しまれつつ伐採される事となった。

この老木、確かな樹齢は不明だが、語り継がれるところによると、江戸時代末期には見事な花を咲かせていたという。明治から数えても元号で五代、それ以前を測り知る事は出来ないが、古い墓石の年号と照号しても推定二百年以上、この地にじっと立ち続けた樹木と言う事となる。

平成25年9月までは、村の天然記念物とされていたというから、ご存知の方も多いと思う。ここに埋葬された者たちの静かな眠りを守り、墓参に集う人々の「確かな生」を見つめて葉を繁らせた枝は、幾千の小鳥たちが羽を休めたのだろう。その太い幹廻りは、樹木とは思われない程の容姿となり、その永い歳月を感じさせるたたずまいである。

伐採業者によれば、この太幹は枯れ木のオブジェと加工されるという。この日、根を張った桜の生命は終わりと成る筈だったが、新たな役割を担うスタートの日ともなった。いつの日か別の形となつて、我々の眼前に現れるのかも知れない。死と生は繋がつてゆく…。

かく言う筆者もその枝で炭を焼いた。炭は焼かれて灰となるのだが、その折、筆者の生業である、山女魚の炭火焼を生み出してくれ、それを食した人の血肉になつてゆく(勿論、山女魚の命も含めてであるが)。言い換えれば、筆者自身もその糧によつて、今日の命を与えられたとも言える…。桜の霊は、違う回路をたどつて他の生命に宿つてゆく。人は不老不死とか、永遠の命とかを夢物語の様に語るけれども、なんの事はない、それは太古の昔からしっかりと存在していて、この世の森羅万象という物に終わりなき無いのであろう。そして我々人間もまた、その延長線の上に僅かな時間立っているだけなのではないだろうか…。そんな事を想いながら、倒伐前の仏事を眺めていた、僧侶の読経、香のけむりと匂い、ウグイスの鳴き声が妙に耳に響く、夏の朝であった。せせらぎ

第36回 朝日村お夏まつり

7月27日(日)、朝日村運動広場グラウンドにて『第36回朝日村お夏まつり』が催されました。開会に先立って、村のイベントではすっかりおなじみとなった団体、グループがオープニングイベントとしてステージに登場しました。

まずは朝日小学校金管バンド『プログレッシブ』。今年度初めてのステージ演奏となりましたが、金管バンドとしての新曲『バイレーツオブカリビアン』など3曲を、明るく元気に披露してくれました。

続いてはこちらもお馴染みの、おやじバンド『じゃがぐず』。有志?の子ども達と『朝日村がいい』を皮切りに、その後はまさにおやじ世代にはたまらない選曲で会場を沸かせてくれました。

そして、村中央公民館を中心に練習、活動しているダンスグループ『サンライズ』。『APT』などの流行の曲や、かっこいい曲に合わせて、今年もまた元気でかわいいダンスを見せてくれました。

オープニングイベントで盛り上がったお祭気分をそのまま引き継いで、朝日村鉢盛太鼓の勇壮な呼び込み太鼓、下田力実行委員長、小林弘幸村長の挨拶と続き、いよいよまつりの開会となりました。

今年は司会進行を朝日村在住、鉢盛中学校1年

生の女子4名が務めてくれました。緊張も見られましたが、その初々しさと可憐な浴衣姿が夏のまつりに彩りを添えていました。

さらに今年は銭太鼓のパフォーマンスが復活し、こちらの担い手は鉢盛中学校3年生の女子3名ということで、若い力が大いに活躍する姿が見られました。



狐面



上手にできたね!



踊りの祭典

また、会場にはあちらこちらに、思い思いに意匠を凝らした狐面をつけた人々が。これは、事前の講習会や当日設けられたブースで、白狐面に各自が好きなように紋様を描くことができるという企画から生まれたもので、女狐お夏のまつりにふさわしい、幻想的な演出に一役買っていました。

さて、いよいよ『踊りの祭典』の始まりです。



ナイアガラの滝

朝日村の風物詩『お夏おどり』や『朝日小唄』が、それぞれ子ども達の歌や生演奏で届けられました。そして、会場中央にこしらえた櫓を中心に、各分館を始めとしたいくつもの踊り連が休憩を挟みながら1時間あまり、しっかりと練習したであろう揃った踊りや、とにかく笑顔いっぱい楽しく踊る姿を披露してくれました。

また、踊りには参加しなくてもたくさんの人たちが、例年よりも多い屋台の出店に舌鼓を打ちながら（子ども達は買ってもらったおもちゃなどを



花火の祭典

手にしながら）踊りを見物していて、会場全体が一体となったまつりの空気を作り出していました。

踊りのスタート時は、雨に降られてステージをアリーナに移動するなどのちょっとしたアクシデントはありましたが、大いに盛り上がりを見せたまま『踊りの祭典』は終了しました。

こうして楽しいまつりの時間も残りわずかとなり、プログラムの最後を飾る『花火の祭典』が始まりました。

メッセージ花火を交えながらの30分あまり。それほど混雑もなく、こんなに間近で見ることのできる打ち上げ花火。実に贅沢な時間です。

そして最後の花火が打ち上げられ、その後に訪れる暗闇と静寂がまつりの終わりを告げました。ふつと我に返ると、周囲の人たちもまつりの余韻を引きずりながらも家路につき始めています。



踊り連の様子

こうして今年もまた、女狐お夏の幻術に化かされたような、真夏の夜の夢のようなひとときが終わりました。

特集 分館納涼祭

古見分館

8月2日(土)午後4時過ぎ、分館長の開会宣言とともに古見集落センターにて古見分館納涼祭が催されました。

今年の猛暑を象徴するようにまだまだ空気が熱気を帯びる中、仮設のテントには椅子とテーブル(テーブルの上には乾き物が!)が用意されていて、時折吹き抜ける涼しい風と共に生ビール等、冷たい飲み物を気持ちよさそうに飲む大人達の姿が見られました。

また、射的に輪投げやスーパードール・ヨーヨーすくいといった遊びを子どもだけでなく大人も童心に返って楽しんだり、焼きそばやクレープ、フランクフルトなどの出店もあったので、まさに心もお腹も大満足といった様子でした。

一方、集落センター室内では、今年度導入されたエアコンが遺憾なくその実力を発揮して、外の暑さから涼を求めてやって来た人々が(最初はみなさん遠



古見分館の方々



古見分館納涼祭の様子

慮がちでしたが)楽しくカラオケに興じたり、ホールでは子ども達が追いかけてっこをしたりと思いいいに過ごす姿が見られました。

夏の輝くような夕暮れから宵のうちのひととき、たくさんの人たちの笑顔が飛び交う楽しいイベントとなりました。

山野沢分館

7月20日(日)、JA旧生活店舗駐車場で小野沢分館納涼祭が行われました。今年も午後5時頃の時点で気温が28度位あり、大変暑い納涼祭の始まりとなりました。



小野沢分館納涼祭の様子



キッチンカーもずらり

毎年楽しみな屋台の食べ物も、美味しい分館手作りの焼きそば、焼ききたての焼き鳥とフランクフルト、良く冷えた生ビールと缶酎ハイとジュース、昨年よりもパワーアップしたお洒落な料理を提供するキッチンカーが3台(沖縄料理、カレーとトルティーヤ、ポップコーン)出店されていました。沖縄料理の出店は初めてで、とても美味しかったです。他にも出店があり、おしゃれな氷屋

さん、筆者も大好きな松本のおやきやさん、ららひかりやさんなど、大変充実していました。子どもたちには、お祭りらしく輪投げコーナー、午後7時半からの子ども参加の花火大会がありました。今年は、特設ステージも作られており、生バンド演奏が行われて大変な盛り上がりで、会場には小野沢地区の50人以上の方々が参加され大盛況でした。毎年納涼祭のお楽しみ豪華商品が目白押しのかじ引き大会が行われ、大勢集まったお客さんで午後9時まで大賑わいでした。

針尾分館

8月9日(土)、針尾スケートリンクにおいて、針尾分館の納涼祭が開催されました。今年は、お夏まつりの日程が前倒しとなったため、いつもよりも遅い日程での開催となりました。

午後6時に納涼祭がスタートすると、赤い法被を着た分館運営委員がお祭りの雰囲気盛り上げ、射的やキャ



はいれ!



うまく当たるかな?

ラクター人形すくい、輪投げなど無料の出し物と、キッチンカーや馳走よしひらによる飲食販売が行われました。浴衣や甚平を着た子どもたちは、自分が欲しい景品を手に入れようと夢中になって楽しんでいました。キッチンカーでは、クレープやソフトクリーム、フランクフルトなどが、馳走よしひらでは、唐揚げなどが販売され、大盛況でした。

午後7時からは、レジャー用品や珈琲哲學の商品券などを景品とした抽選会が行われました。その後、午後7時半からは、子どもたちを中心とした手持ち花火大会が行われ、参加者は、過ぎゆく夏を楽しんでいました。

西洗馬分館

7月12日(土) 午後7時より、農協西洗馬出荷所にて西洗馬分館納涼祭が行われました。

当日はお天気にも恵まれて開始時間の前から親子連れの皆さんが大勢集まっていました。

分館運営委員が準備したフランクフルト、かき氷、アルコール類、ぼんぼんなど7種類をはじめ、K'sカフェさんのタコス、珈琲哲學さんの焼きそば、クレープのキッチンカーに、ららひかりやさんの駄菓子を含めて盛沢山のコーナーが用意されていて、集まった皆さんは満足されたのではないのでしょうか。



西洗馬分館の屋台



大勢の人で賑わいました

昨年に続き告知チラシについた引換券での花火140個配布と分館運営委員の好意によるカブトムシの無料配布も行われて、こちらにも列が出来ていました。

分館長がおっしゃっていた『旧友やご近所の皆さんにこの場所で楽しいひと時を過ごして頂きたい。』という光景があらここに現れ受けられました。





サラダの里通信

ソフトテニス「鉢盛クラブ」全国大会出場！～全国中学校体育大会へ～

令和7年8月に開催された北信越大会において、鉢盛クラブ所属の鉢盛中学校3年の近藤希さん（朝日村古見）と安曇野市穂高東中学校3年の北澤結奈さんペアが見事なプレーを披露し、3位入賞で8月19日～21日に熊本県で開催された「第56回全国中学生ソフトテニス大会」へ出場を決めました。

この大会は、全国の中学生ソフトテニス選手たちが技を競い合う、年に一度の大舞台です。今回の出場は、日々の練習の積み重ねと、仲間や指導者、保護者の支えが実を結んだ素晴らしい成果です。

近藤希さんは、「今まで支えてくれた皆さんに感謝し、全国大会でも積み重ねたものを発揮し、悔いが残らないような大会にしたい。」と意気込み、大会に挑みました。

初戦敗退という結果となりましたが、誰もが立てる場所ではない「全国」の舞台。そこで戦った経験は一生の宝だと思います。

地域から羽ばたく若きアスリートの今後の活躍に期待します。



近藤選手（右）と北澤選手（左）



大会に出場した近藤選手（左）と北澤選手（右）

☆鉢盛中学校ソフトテニス部は令和7年度より地域クラブに移行し「鉢盛クラブ」として活動しています。また、小学生対象には「朝日クラブ」もあります。テニスに少しでも興味のある方は参加してみてもいいかでしょう。

監督 上條浩充
コーチ 山岸朋博

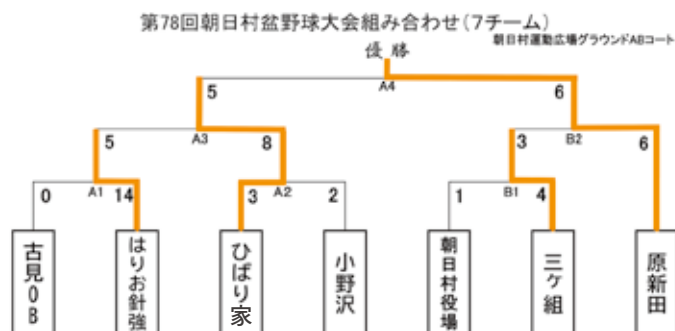
第78回朝日村盆野球大会

8月14日（木）、今年も朝日村盆野球大会が朝日村運動広場グラウンドで開催されました。プレーされる方も、観戦される方も、毎年楽しみにしているこの一大イベントは、7チームのトーナメント戦で行われました。前々日まで雨の多い気候となっておりましたが、当日は酷暑ともいえる暑さの中、まさに熱戦と呼べる熱い戦いが数多く繰り広げられました。

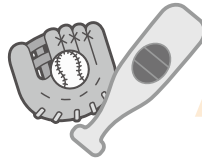
特に決勝戦のひばり家チーム対原新田チームの一戦は、規定の7回まで終わって4対4の同点。ノーアウト1塁2塁から始まる延長タイブレークに突入しました。8回表、ひばり家チームが1点を取ると、その裏の原新田チームも1点を取り返す一進一退の攻防戦。9回裏に原新田チームが1点を取りサヨナラで優勝を決めました。



優勝した原新田チーム



【優勝】原新田チーム
【準優勝】ひばり家チーム
●個人賞
【最高殊勲賞】原新田チーム 高橋一幾選手
【敢闘賞】ひばり家チーム 柳沢政由選手
【新人賞】原新田チーム 清澤創崇選手
【特別賞】はりお新強チーム 上條孝幸選手



鎖川ヤマメ釣り・つかみ取り大会



釣れた！



とったー

お盆恒例の鎖川ヤマメ釣り・つかみ取り大会が、8月15日(金)に開催されました。JA松本ハイランド朝日支所付近の鎖川特設会場に、大きさ20cm程のヤマメ約2000匹が放流され、8時半、花火の号砲を合図に始まった釣り大会には90名が参加しました。開始早々釣り上げた清沢純士さん(小5・針尾)は、今回が2回目の参加。昨年は釣ることができず、今年、念願の一匹を手にして安堵の表情を浮かべていました。午後からはつかみ取り大会が行われ、保護者引率の保育園児から小学生まで134名が参加。学年ごと3回に分けて行い、素早く泳ぎ回るヤマメに悪戦苦闘しながらも、大物をつかみ上げると大きな歓声が響き、盛り上がりを見せていました。

参加者はこの催しを通じ、あらためて朝日村の自然の豊かさや、恵みを体感した一日となりました。

開催にあたり、運営に携わってくださった皆様に感謝申し上げます。

鉢盛山登山マラソン

8月3日(日)第7回鉢盛山登山マラソンが行われました。7回目となると、もはや真夏の朝日村の風物詩とも言えるイベントになって来ています。

エントリー数も年ごとに増え、リピーター参加の選手を含め、400名近くの参加がありました。また、最長のスカイ・コースでは200名以上のランナーが、鉢盛山頂を目指して真夏の朝日村を駆け抜けました。迎える村民側も、手作り看板を掲げて選手を激励したり、遠方からの参加選手をホームステイにて受入れたり、相互の一体感に溢れた大会となって来ています。筆者もボランティア参加ながら、林道ゲート給水所にて、水分補給の水を配ったり、クール・ダウンに水を浴びせたりとお手伝いをさせてもらえました。

特に復路では、登山道下りて出来た擦り傷の洗浄などもしましたが、もう少し丁寧にしてあげられれば良かったかなとも思っています。選手の走りたい気持ちを充分に理解しつつ、時にはそれを引きとめる意識も必要なのかなと反省しています。それにしても水を浴びるランナーたちは、異口同音「冷たいー！」「生き返るっ！」と絶叫します。

「朝日村の水はホントに気持ちいいー!!」と言われた時はこちらも嬉しくなりますが、冷静に考えると、この真夏のカンカン照りに汗だく・砂まみれで走るんだから、特別朝日村の水でなくても気持ちいいでしょ……と思いました。

……が、それは言えませんでした。ここに書いていましたけど……。



鉢盛山登山マラソン

鉢盛中学生の夏休みボランティア体験

8月5日(火)から8日(金)まで「あさひ保育園」と子育て支援センター「わくわく館」で、中学生のボランティア体験が行われました。参加したのは鉢盛中学校の生徒13名。園児と遊んだり、支援員さんのお手伝いをしたりと、にぎやかな時間になりました。

参加したきっかけは「子どもが好きなことから」「地域の活動に関わってみたくて」と思ったから「などさまざま。実際に活動してみると「子どもたちとたくさん遊べて楽しかった」「先生の仕事は思ったより大変だけど、すごくやりがいがあると感じた」といった感想が聞かれました。また「小さい頃に自分が通っていたわくわく館を、中学生になった今、体験できてうれしかった」という声もあり、懐かしさと新しい発見の両方を感じられたようです。

「また参加したい」「次はもっと小さい子とも関わってみたい」と笑顔で話す生徒たち。園児や子どもたちも、優しいお兄さんお姉さんとの時間を楽しんでいた。

元気いっぱい
の交流で笑顔
が広がったこの
体験。中学生にとっても地域にとっても、夏のすてきな思い出となりました。



ボランティア体験の様子

窓口情報

※本人の了承を得て掲載しています。

おくやみ

地区名	氏名	年齢	世帯主
大原桜台	上 條 美 那 子	92	上 條 由 紀 夫
大 石 原	粟 津 原 今 朝 雄	105	本 人
新 田 上	上 條 ゆ き 子	102	本 人

家族の趣味

私の妻は、お花や植物が好きな事も在り、仕事も薔薇の手入れや植物に関わる事をしていきます。ここ数年の好みは、多肉植物（特にエケベリア）・サボテン・珍奇植物を集めて育てています。皆さんエケベリアってご存知ですか？いろいろな種類があり、見た目も様々、葉っぱの色、形など凄い数があります。交配して増やすので組み合わせは、無限にあります。ホームセンターにも並んでいる事があるので、見た事がある方もいるかもしれません。今、多肉植物にハマる人も多く、そんな人の事を多肉をもじってタニラーと呼びます。私の妻もその一人です。家の裏の小さなハ

ウスで、すでに300種類以上700鉢以上はあります。お花も咲き、夏場は緑色ですが、冬になると日中の寒暖差で赤色や黄色、オレンジ色に紅葉します。そこが、可愛いと喜んで集めています。私から見るとあまり違いが判らないのですが…。

初心者向けで他の植物と違って水が少なくても大丈夫で枯れにくいようです。私も昔、妻と趣味を合わせようと頑張って育ててみましたが、上手く出来ませんでした。根気が必要な趣味の様です。今は、妻が多肉イベントに参加する時の運転手としてお手伝いをしております。（ちなみに私の趣味は、車をいじる事やゲームなどです。）



お台所
エッセイ

169

T・K



みんなのアトリエ



朝日小学校1年1組

まるやま ほのか

丸山 穂乃果 さん

やぶいた形から「きょうりゅう」

プテラノンの羽のところがうまく
できました。



朝日小学校4年1組

まるやま ひろゆき

丸山 広幸 さん

「みんな楽しいひげダンス」

体の部分がしっかり描けました。腕や
脚の折り曲げたところを工夫しました。